

第3学年国語科学習指導案

日 時 平成16年10月29日(金)4校時
児童数 男11名 女13名 計24名
授業者 小野寺敦子
場 所 2F 図書室

1. 単元名 じゅんじょが分かるように、話したり聞いたりしよう
教材名 道あん内をしよう 光村図書出版 3年下

2. 単元について

(1) 教材について

本教材では、教材文で道案内の問題点を見つけたり実際に道案内の練習をしたりする活動を通して、相手の立場に立って分かるように順序よく話すことや、大切なことに気をつけて聞くことをねらいとしている。そのねらいから、3・4年生の話すこと・聞くことの指導目標「相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気を付けて聞くこと」を満たすことができる教材であると考えられる。

また、道案内という学習活動は日常生活上必要性もあることから、子どもたちは意欲的に取り組むであろう。相手意識をもって話したり、大事なことを注意深く聞いたりする力を育てることができると考えられる。

(2) 児童の実態

3年生の児童は明るく活発であり、決められたことを発表する時には大きな声を出している。しかし、クラス全体の場で発言することに抵抗があり、指名されて質問に答える時や感想を発表する時では、声が小さくなったり言葉に詰まったりする子が多い。そこで日常的には朝の会でスピーチを行い、自信をもって話せるように取り組んでいる。

子どもたちは、6月「名前をつけよう」の単元学習では、学級文庫や社会科探検のグループ名を決める話し合いを行い、お互いの思いや考えを根拠を持って伝えあうこと、そしてお互いの考えを尊重しつつ合意点を見つけるための手立てを学んだ。9月「みんな、子どもだった」の単元学習では、昔の生活や遊びについて詳しく調べるために大人にインタビューをし、発表については実物を提示したり実演したりしながら話す活動を行い、相手に分かるように適切な言葉で話すことや筋道を立てて話すことの必要性を学んだ。

これらの活動を通して、授業や学級の話し合いでは、徐々にではあるが生活経験をふまえて自分の考えを話し、相手の話も大事なことを押さえながら聞くことができる児童が増えてきている。

(3) 指導にあたって

本教材では、道案内をするという言語活動を通して、相手に応じて話す内容や話し方を考えること、相手の反応を確かめながら言葉遣いに注意して話すこと、また分かりにくいところや聞き逃したところを聞き返すことなど、コミュニケーションで大切な要素を押さえたい。

第一次では、道案内のCDを聞いてどのような学習内容なのかははっきりととらえさせ、意欲や関心を持てるようにしたい。また、CDの説明で目的地にたどり着けなかった原因を話し合い、道案内をする上で曲がる場所や目印や方向に気をつけて、順序が分かるように説明することが大切であることに気付かせ、理解させたい。

第二次では、道案内ゲームに向けて案内メモを書き、個人練習を行う。聞き手の年齢や目的を変えることで相手に応じた話し方を考え、相手に応じた話し方ができるようにさせたい。

第三次では、道案内ゲームを取り入れ、グループごとにもう一度道案内できたかを相互評価し合うことにより、達成感をもって本単元を終わらせたいと考える。

3. 研究テーマとの関連

本実践では、自分の考えを相互交流するための力をつける手段として、次の二点を考える。

一点目は、よい道案内の仕方考えた後にモデルを示し、それをもとにした練習を行う。このことにより自分たちが考えたことが具体化されることで理解が深まり、話すことが苦手な児童でも要点を得た練習ができると考える。

二点目は、練習形態を工夫し、個人練習の後に3人一組で道案内の練習をする。また、話す人をチェックする(アドバイスマン)がいることで、客観的なアドバイスや評価ができ、次につなげながらそれをグループ内で話し合うことで、友達のよさを共有して取り入れることができるようにしたい。

本単元の指導を通して次の五つの言語意識を明確に位置付けていく。

相手意識	学級の友達や大人に
目的意識	相手がうまく目的地に着くことができるようにするために
場面状況意識	道案内ゲームで
方法意識	順序がよく分かるようにゆっくりはっきり、説明や言い換えをしながら話したり、話の内容を確かめ、メモを取りながら聞いたりする。
評価意識	自己評価や相互評価を通して聞き間違いを起こさないような話し方・聞き方ができたか。

4. 単元目標及び評価規準

伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように道筋を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話す。

観 点		評 価 規 準	評価場面 [分析方法]
関心・意欲・態度		道案内で大切なことを選び、相手に分かるように順序よく話そうとする。	・ プリント[記録分析] ・ 観察[発言分析]
能力	話す・聞く	・ 道案内で大切なことを選び、相手に分かるように順序よく話している。 ・ 大切なことに気をつけて聞いている。	・ 観察[発言分析] ・ プリント[記録分析]
	言語事項	相手が聞き間違わないように、道案内に適切な速さで話している。	・ 観察[発言分析]

5. 指導計画と評価規準 [全4時間]

次	時	指導形態	学習計画	評価規準	具体的評価規準		努力を要すると判断された児童への具体的な手立て	研究テーマとの関連
					A (十分満足)	B (概ね満足)		
一	1	一斉	単元のねらいを知り学習の見通しを持ち、花園児童館までの道案内の仕方を考え話し合う。	はなぞの児童館までの道案内の仕方を考え、話し合っている。	CDの説明では不足していた点を説明でき、道案内の要点を理解している。	CDの説明でうまく案内ができなかった理由を発言している。	CDを聞く前に、絵地図を使って、児童館までの道順を考えさせる。	自己評価
二	2	個人	・ 道案内をするための道案内メモを書く。	・ 目的地までの道案内メモを行動の順序が分かるように書いている。	・ 道案内メモをつなぎ言葉を遣い歩く順序が分かるように書いている。	・ 道案内メモを歩く順序にそって書いている。	・ 目的地までの道のりを区切って考えさせ、箇条書きにさせる。	モデルの提示 相互評価 自己評価
		一斉	・ 相手によって、道案内の説明の仕方が変わることを知る。	・ 相手によって注意しなければならない点を考え、説明の仕方を理解している。	・ 相手によって注意しなければならない点を説明でき、説明の仕方を理解している。	・ 相手によって注意しなければならない点に分かり説明の仕方を理解している。	・ 具体例を想起させ、相手によって注意しなければならない点を理解させる。	
	3	グループ	地図を使って道案内の練習をする。	道案内の練習をし、行動の順序に沿って、相手に応じた話し方をしている。	行動する順序に沿って目印等を入れながら分かりやすく、相手に応じた話し方をしている。	行動する順序に沿って正確で相手に応じた話し方をしている。	学習プリントや提示したモデルを参考に、道順を考え行動を区切り正しく説明できるようにさせる。	モデルの提示 相互評価 自己評価
三	4	グループ	友だちや大人の人を実際に道案内する。	「道案内ゲーム」を通して、友だちや大人の人に対して道案内をしている。	「道案内ゲーム」を通して、分かりやすく適切な言葉遣いで道案内をしている。	「道案内ゲーム」を通して、友だちや大人の人に対して正確に道案内をしている。	前時までのプリントや掲示してあるモデルを参考に簡単なメモを書かせる。	モデルの提示 相互評価 自己評価

6. 本時の指導

(1) 目標 行動する順序を考えながら、相手に応じた話し方ができる。

(2) 具体の評価規準

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する児童への支援
行動する順序に沿って目印等をいれながら分かりやすく、相手に応じた話し方をしている。	行動する順序に沿って正確で相手に応じた話し方をしている。	学習プリントや提示したモデルを参考に、相手に応じた話し方を意識しながら、道順を考え行動を区切り正しく説明できるようにさせる。

(3) 展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点 評 価
と ら え 5 分	1. 発音・発声練習をする。 2. 学習課題を確認する。 道案内の練習をして、大人の人によく伝えるように話そう。	姿勢・口形・声の大きさに気をつけて練習させる。 前時に書いた案内メモを見ながら、大人の人に道案内を確認し本時の学習への意欲を高める。
み と お す 1 5 分	3. 道案内で大切なことを確認する。 ・前時の1年生に対する道案内を振り返りながら、よい道案内の仕方を確認し、大人に対してとの違いを考える。 <よい案内の仕方> 1. どこから、どこまで行くのかたしかめてから話す。 2. 歩いていくじゅんじょが分かるように話す。 3. 目じるしになるものや、曲がるときの方向を言う。 4. 相手が分かったかどうかたしかめながら話す。 5. 大きな声ではっきり言う。 6. 相手にあった言い方をする。 1年生・・・ゆっくり・やさしく・文を短くぎって 大人・・・ ていねいな言葉 <聞き方> 1. 分からないところ、聞きのがしたところは、質問する。 2. くり返し言ってみて、いいかどうかたしかめる。	前時のめあてが達成できた児童をモデルとし、道案内で大切なことを確認する。また、それが本時のめあて(評価のポイント)でもあることを理解できるようにする。 案内の時に使うと分かりやすい言葉(つなぎ言葉など)を確認する。(こめの角を、次に、) よい道案内の仕方を、いつでも振り返ることができるように板書しておく。 道順を考えやすいように拡大地図を掲示しておく。 1年生に対しての道案内との違いを考え、よい道案内の仕方や聞き方を理解することができたか。
ふ か め る 2 0 分	4. 個人練習を行う。 5. 道案内の練習をグループごとに行う。 ・ 練習方法の確認 ・ 道案内の練習 ・ 練習の交流	道案内のメモを用意しておく。 自己評価をさせる。 1チーム3人。(話す人・聞く人・アドバイスマン) アドバイスマンは話す人の評価をし、アドバイスを行う。 練習が終わったグループは、道案内を振り返る話し合いを行う。お互いのよかった点やアドバイスをプリントに書かせる。 早く終わったグループは参観中の先生方に対して道案内の練習をする。 良かった点を取り上げ、学習に満足感を持たせる。 行動の順序に沿って、相手に応じた話し方をすることができたか。
ま と め 5 分	6. 学習を振り返る。 ・ 学習を振り返り、自己評価をする。 ・ 次時の学習の見通しをもつ。	プリントで自己評価をし、早く終わった児童には友達のよかった点を書かせる。 聞き方がよかった児童も取り上げ、実際の案内の場では、話し方だけでなく聞き方も大切であることを確かめる。

(4) 板書計画

道あん内をしゅう

道あん内の練習をして、大人のによく伝わるように話そう。

〈よいあん内の仕方〉

(内容)

1. たしかめてから話す。(どこからどこまで)
2. 歩いていくしゅんじゅんが分かるように
3. 自じるしや、曲がるときの方向
4. **たしかめながら話す。(相手が分かったかどうか)**

(言い方)

1. 大きな声ではっきり言う。
2. 相手にあった言い方をする。
1年生・ゆつくり・やさしく・
文を短くくぎって

大人・・ (ていねいな言葉)

〈聞き方〉

1. 質問する。(分からない点 聞きのがした点)
2. くり返し言う。(いいかどつつかたしかめる)

〈あん内名人の言葉〉

拡大地図

まず、

次に

そしたら、

まっすぐ行くと

こめの角を に曲がってください

のまんなか